



ICT 海外ボランティア会会報

No. 98

2021年6月1日(火)

URL: <https://ictov.jimdo.com>

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆特別寄稿

<続> “第二の故郷” アルゼンチンへの想い

(社)量子 ICT フォーラム総務理事

当会顧問 飯塚 久夫

◆特別寄稿

岩槻(徒然)日記(14)

当会特別顧問

石井 孝

◆特別寄稿

断絶の米国

元 NTT アメリカ社長

現 株式会社ハイホーCEO

当会顧問 鈴木 武人

◆JICA の動き

JICA 海外協力隊 2021 年春募集

事務局

◆国際交流基金の動き

日本語パートナーズ派遣事業の募集

事務局

◆海外グラフィティ

定年後の世界

「終わった人」・・・内館牧子を読んで

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智

◆海外便り

ハンガリー・オーストリア・ドイツ俳柳紀行(1)

元 JICA シニア海外ボランティア 北垣 勝之

◆第 7 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

事務局

◆第 8 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

事務局

特別寄稿

<続> “第二の故郷” アルゼンチンへの想い

(社) 量子 ICT フォーラム 総務理事
当会顧問 飯塚久夫

数年前に表記タイトルで本欄に寄稿させていただいたところですが、改めて“第二の故郷”の近況と趣味の話を書かせてもらいます。お気軽にお読み下さい。



アルゼンチンと日本との歴史的関わりは前回書きましたが、近年では当会特別顧問の石井孝さんも勤務されておられます。石井さんがおられたのはブエノスアイレスから 200 キロほど北西に行ったロサリオという所で（世界で一番有名なアルゼンチン人？）チェ・ゲバラの生まれた街です。私は仕事でアルゼンチンに行ったのは放送デジタル化と国交 120 周年のことだけで、あとは趣味のことで数年前までは殆ど毎年訪垂していました。若い頃は NTT に技術研修で来日する ENTEL（当時の電電公社）の人をつかまえてはスペイン語の勉強をさせてもらっていました。私にとっては本当に“遠くて近い国”です。

アルゼンチンと言えば、昨今の日本では債務超過国いわゆるデフォルトを起こした印象の強い国になってしまっているかも知れません。確かに過去 9 回もデフォルトしています。しかし、それでも実際に国が潰れないのが資源（含食料）のある国は羨ましいと思うところです。

日本企業からみた印象は地に落ちて過去より残念な経済関係になっており、本当に“遠くて遠い国”になっている感ありです。でもトヨタや NEC など現地で健闘している会社もあります。

数年前“東京オリンピック”を決めた地はブエノスアイレス、当時の政権（2015～19）は中道派の大統領であったこともあり、2016 年には安倍総理が、現職の総理大臣として 57 年ぶりにアルゼンチンを公式訪問、翌 17 年にはアルゼンチンの大統領としては 19 年ぶりにマクリ大統領が日本を公式訪問しました。さらに、両国外交関係樹立 120 周年を迎えた 18 年には、G20 ブエノスアイレス・サミットに出席するため安倍総理がアルゼンチンを再訪、翌 19 年 6 月には、マクリ大統領が G20 大阪サミット出席のため再訪日し、2016～19 年は、日亜の長い歴史の中でも、両国首脳が 4 年間連続で相互訪問するという歴史的な 4 年間でした。

しかし、2019 年 12 月以降、ペロン党（あの“エビータ”で有名なペロン大統領の流れ）政権に戻り、新型コロナもありあまり進展のない日亜関係になっています。

最近の状況は相変わらずの国の債務問題、IMF（国際通貨基金）やパリクラブ（主要債権国会議）は前回のペロン党政権の時は嫌がらせ的なことまで含めて極めて厳しい対応でしたが、今回はパリクラブは 4 月が期限の 24 億ドル（約 2620 億円）の債務支払いについて、デフォルトを宣言せず遅延を容認する方針。IMF と 450 億ドルの債務再編で合意できることを期待しているといわれます。

その一方で、アルゼンチンもコロナ禍の影響は大きく、この 4 月に保健相が「最悪期」のさなかにあるとの見解を示しています。ロシア製ワクチン「スプートニク V」を中心に接種を進めていますが、コロナ死者が 6 万人を超え、ロックダウンなどの一部規制の再発動に追い込まれています。4 月時点で確認されている感染者は 280 万人、死者累計

は6万人となっています。フェルナンデス大統領は、ブエノスアイレス首都圏に導入したコロナ行動制限措置をさらに厳格化し、夜間外出禁止措置も午後8時から翌日午前6時までに拡大すると発表しました。

しかし（私からするとこれがいかにもアルゼンチンのようですが）、ブエノスアイレス市民は、特に学校の対面授業の停止に反対して市内各地で連日「鍋たたき」による抗議活動（カセロラッソ）を実施しているそうです。

そうした中でアルゼンチンだけではなくラテンアメリカ全般ですが、中国の影響は高まるばかりです。コロナ禍で、2020年は中国国営銀行の中南米向け融資がゼロになっていますが、中国・中南米カリブ協力基金（CLAC）や産業協力投資基金（CLAI）を通じ、相変わらず中南米向けに資金を提供しているようです。

そして“ワクチン外交”を積極展開、むしろ、コロナ禍で中国と中南米の結び付きが一層強まったとの見方もあります。そうした中でアルゼンチンとの二国間協力は加速化。中国の対中南米経済外交の最優先国とみられるのはアルゼンチンです。アルゼンチンの現政権は19年発足以来、中国との経済関係を重視。フェルナンデス大統領は習近平国家主席としばしば電話会談や親書交換を通じて「包括的な戦略的パートナーシップの深化」を目指し、さまざまな分野での二国間協力の促進について協議してきたようです。去年は中国人民銀行との間で新たな通貨スワップ協定を締結、国会でアジアインフラ投資銀行（AIIB）加盟法案を可決しています。さらに昨年末には、アルゼンチンの鉄道建設・整備プロジェクトに対し中国が総額47億ドルの資金協力を行う協定が結ばれました。

21年に入ってから両国の経済関係は一段と加速化しています。リチウムイオン電池と電気自動車製造に関するアルゼンチン政府と中国企業との合意、中国企業によるアルゼンチンの鉱山会社買収も相次いで発表されました。アルゼンチン・サンタクルス州での水力発電所建設を含めエネルギー・インフラ分野での中国の協力も進んでおり、フェルナンデス大統領が訪中し、習近平国家主席らと会談し、中国側はその際、アルゼンチンで4番目の原発建設への資金援助など総額300億ドルの投資計画を提案するとの情報が流れています。

国間の交流史と人的な共通感覚を有する日本とアルゼンチンは、将来的な安全保障の観点からも本当に“遠くて近い国”になっていた方がいいと心底思う私としては、昨今の状況は焦燥感に駆られるばかりです。

最後に趣味(タンゴ)の話です。本場といえどもこのコロナ禍とあってタンゴのコンサートもダンスの場もすっかり閉じられており、アーティストの中にはオンラインで活躍している人もいますが、全体的にはアルゼンチンが誇る世界文化遺産に携わる人々（演奏家、歌手、ダンサーなど）は死活問題に直面している状況です。2003年来毎年8月には世界中から10万人の来訪者を集めている「タンゴ・ダンス世界選手権大会」も中止になっています。

そうした中であって、2021年は著名なバンドネオン奏者アストル・ピアソラの生誕100周年、3月には世界三大オペラハウスの一つであるブエノスアイレスの“コロソ劇場”で「ピアソラ生誕100周年記念フェスティバル」が二週間にわたり行われました。

日本でもタンゴ・アーティストが苦境に立っているのは同じですが、この7月にタンゴ音楽祭とダンス選手権大会を企画しています。その実施の可否が注目されるころですが、いずれにしても、コロナ禍が一日も早く終息しタンゴ文化の（衰退でなく）継続・発展が改めて訪れる日が一日も早く来ることを祈るばかりです。

岩槻日記(14)

当会特別顧問 石井 孝

「2025年の崖」

最近、世間を騒がせて居る問題にデジタル化があるが、これを起因させた要因の一つに所謂「2025年の崖」があるのではないかと愚考する。

今や、事業経営（運営）はコンピュータ化され、ソフトウェアシステムに経営の全てが委ねられていると言っても過言ではないだろう。

しかし、それらのソフトウェアシステムは、遺物化されつつあり、しかもそれに対する維持管理はベンダーにすっかり依存している。そして、現在、システム自体も、それに関連する人達も定年を迎えようとしているわけである。

今日、急速に進展するIT化に、事業展開を対応するためには、事業の経営主体自らが何らかの形で、ソフトウェアシステムの開発とメンテナンスを実行する必要性を認識し出した。これが、「2025年の崖」のキーではないかと、私は考える。

しかしながら、よくよく考えてみると、この問題は今始まった話ではない。

NTT初代社長の真藤さんは、就任早々、当時、電話サービスの主体となって居た電子交換機のソフトウェア開発とそのメンテナンスをメーカー依存から、完全内製化に移行させた。

また、トヨタの奥田社長は、自動車システムのコンピュータ化に逸早く気づき、これを確実なものにするため、デンソーを完全子会社化した。



「工業技術」

ふと思った事であるが、前世紀に於ける「工業技術」の大きな眼目の一つは、どんガラに動力を付けること、言うなら効率の良いエンジン開発が重要なテーマでは無かったか。

それに対し、今世紀に於ける「工業技術」の重要なテーマは、どんガラに如何にして高性能な情報処理機能を付与するか、である。

コンピュータとソフト、就中、ソフトウェア開発の重要性である。

ここで注目したい点は、ソフトウェアに関しては、エンジン製作に於ける高度な工場設備や熟練工などと言ったモノが全く不要で、極端な言い方をすれば、或る程度の頭脳を持った人であれば、何処に居てもパソコン一つで製作出来る事である。

勿論、ソフトウェア開発をちゃんとした「工業技術」化にするためには、経営者のソフトウェアに対する的確な認識と、それに基づいた開発部隊の組織化等、適切な実現・実行力が必須である。

しかしながら、実情はこの点が極めて貧弱なのではないか。

「構想力」

丸山 有彦氏のご投稿は、極めて興味深いモノである。本日のご投稿は日本人の構想力について問題提起がなされている。

ご投稿をお読み頂ければ、良くお分かりなると思うが、一口に言うと、「日本は一度『カメラ』というようなコンセプトが与えられると、まことに精巧な、見事なもの（ハードウェア）をつくる」。それに対して「アメリカはソフトウェア。広くは発案・構想力・目に見えない思考力に価値を求め、情報化社会を創った」。これは、まさに卓見であると思う。

所で、日本人の中でも素晴らしい構想力を持った方は結構居られるのではないだろうか、例えば真藤（恒）さんである。

氏は「真藤船型」と称される独特なタンカー（ハードウェア）を造られたが、その運行や船上作業の全てに亘って、半世紀近くも前にコンピュータ化（ソフトウェア）を成し遂げて居られる。だからと言って氏はコードが書けたとか、コンピュータ操作に通暁して居たわけではない、優れた構想力を持って居られたのである。

昨今、デジタル化が声高に叫ばれているが、これをリードされる方こそ、単なるデジタル通でなく、真の構想力を持った方でなくてはなるまい。

「池江璃花子さん」

照ノ富士も凄いが、池江璃花子さんは物凄い。不死鳥とは、まさに、「池江璃花子さん」の事だ。

東京オリンピック開催については、色々と意見や問題もあるが、「池江璃花子さん」の為に、何とか成功させたいと思ってしまう。

さて、「たった一度の人生、悔いなく生きろ」などと言われるが、俺はどうしたらいいのだろう。

「オンライン同窓会」

嘗ての職場のOB諸氏との「オンライン同窓会」なるものに参加させてもらった。

オンライン飲み会は初めての経験である。どんな事になるかと思ったが、司会をされたUさんの巧なリードにより、時間の経つのも忘れる楽しい会合になった。

遠くフィリピンからの参加もあり、「オンライン会合」の新たな可能性を考えると、リモートワークなどをも含め、コロナを契機に社会生活の改変・変貌がどうなるのか、改めて色々と考えさせられた。

「相撲中継」

最近のNHK・TVは、ワイワイ・キャーキャー、民放と何ら変わらない。

NHKらしさは何処へ行ってしまったかと思って居たが、NHKの「相撲中継」ラジオ放送を聴いて、これぞNHKと懐かしさを覚えた。

男性アナウンサーの相撲に関する豊富な知識、流れるような歯切れの良い早口言葉、解説者との巧な掛け合い、昔と全く変わらない。

絵はTV、音声はラジオがいい。ワンテンポ絵が遅れるのは仕方ない。

<事務局注> 「徒然日記」が「岩槻日記」に改名されましたが、号数はそのまま継続いたします。また、岩槻日記のホームページは下記のとおりです。

<https://blog.goo.ne.jp/3948kohh>

断絶の米国

元 NTT アメリカ社長
現 株式会社ハイホー CEO
当会顧問 鈴木 武人

1：はじめに

2021年3月21日コロラド州で10名（内警官1名）に及ぶ死者を出したスーパーマーケットでの銃乱射事件が発生しました。本件は日本でも大きく報道され、とんでもない事件と思いましたが、同様のテロの規模の「言われなき大量殺人」が、この数日後にはカルフォルニアでも発生、米国内のニュースを見るとこの種の事件が連日発生して居ることがわかります。驚く事に2020年の全米での銃犯罪の死亡者数は19379人(非営利団体 Gun Violence Archive 発表値)と2万人近く、しかもこの数字は自殺者24090人(同)とは別だそうで、2021年は更に増加すると言われて居ます。自動車社会の米国での交通事故死者数が年間4万人くらいですから、いかに銃による死亡者が多くなっているかが判ります。人口の上でいつの間にか日本の3倍に増えた米国ですが、銃による死者の数の増加は驚くばかりです。過去日本人も犠牲になりました。また警官による黒人への暴行や殺害が「Black lives matter」として世界的な人種差別反対運動として報道されましたが、この種事件も頻発しています。2021年1月16日には大統領選挙での敗戦を認めないトランプのごたごたから彼の「米国を守るために Capitol Hill=議事堂の丘へ行くべし」の演説に従った超保守の白人による議事堂乱入騒動に至り、警察官1名を含む4人の犠牲者をもたらしました。これはいわば政治を暴力で左右させようとしたクーデター未遂の様なもので、この事件は今まで抱いて来た民主主義の宗主・米国のイメージをすっかり壊してしまいました。



2：米国人のストレス

では何故今の米国でこの様な忌まわしい事件が日常化しているのでしょうか？

米国では、その歴史から、銃砲の所持が自己防衛、いわば基本的人権の様に憲法で保障されていることにもあるのですが、もっと深く考えると、その背後には米国人の間に溜ったストレスがあると考えられます。何故なら、911の時の様な宗教的背景が最近の事件には見られないからです。ストレスには種々のものがあるでしょうが、今はコロナでしょう。トランプはマスクが嫌いの様でこれを不要とし、自分も感染したもののたった数日の治療で治った、この病は大した事は無いと復活時に断言しました。それで彼の強気は支持者から大いに賛同、熱狂的な支持を集めていました。白人のマスク嫌いは、もしかしたら会話はお互いの口を見て行う習慣が有るからかも知れないとの説があります。日本人はその点、お互いの目を見て話をしますからマスクがあっても障害にはならないのかも知れません。そういえば透き通るようなブルーの瞳は覗き込んでも透明で引き込まれる感じはあっても意思が通じにくい、更に北欧にみられる灰色の瞳では目を見ても何も分からない感じがしました。その後コロナは猛威をふるい、ついにはトランプ大統領のホワイトハウス退去の18日の直前、2021年1月13日に新規感染者数23万人のピークを記録しました。その後はワクチンの効果が出るまで連日8万人を超え、2020

年度末で計 50 万人以上の死者を出しました。この数字はベトナム戦争、一次/二次世界大戦での米国人の死者よりも多いそうです。その状況で多くの州や市ではマスクの着用義務化、外出制限、レストラン等の閉鎖も行う様になって、これは空襲の経験の無い米国人にとって初めての事で、ストレスは最高潮に達しました。さらに、トランプがその新型コロナの起源を武漢、更には国立研究所からの流出とし、チャイナウイルスとしたことからアジア人の区別が出来ない米国人の一部がアジア人全般を憎み、これへの暴行や殺人事件も頻発し「Black Lives Matter」に加えて「Asian Lives Matter」の運動も起こりました。これもストレスの成せる技でしょう。移民数の多い中国人への虐殺事件は 1871 年の中国人虐殺、1885 年のロックスプリングス虐殺が有名ですが、その後も幾つかのチャイナタウンでの暴動騒ぎも時々起きています。それらは我々にとっては第二次世界大戦時の日本人排撃運動、財産剥奪・収容キャンプ所等も思い出させます。日本の場合は太平洋戦争と収容キャンプの問題からか、いわゆる日系人の名誉回復に関する活動以外に団体を作って政治的活動をする事は余りありませんでしたし、また日本からのビジネスマンとの交流も余り目立ちません。これに対し中国人や韓国人は地区毎に夫々強固なコミュニティ、また移民手続きや経済的援助団体、さらに本国からの支援も受ける形で、その全国組織をもっており、それは選挙の際にも強固な活動を行っています。いずれにしろ、人種差別や暴動の背後には経済問題、失業や貧困があり、その原因を低賃金で働く移民や黒人等に向け、結果的に人種間の差別や分断、憎しみを生じている事も浮かび上がります。思い起こせばトランプ氏は大統領出馬の際にこの様なストレスについて支持者を集めて大統領になった様にも思えます。米国はリンカーン大統領以来人種差別は無くすとのコンセンサスがあり、KKK 等の超白人主義は存在しても隠れた存在でした。しかしながら、トランプはその存在を認め、結果多様な人種に対する差別主義が全米に広まりつつある状況で、最近ではコロナをもじって「The Racism Virus」という言葉も一般化しつつあります。

オバマ大統領の真反対の政策であったトランプ大統領もようやくホワイトハウスを去り、バイデン氏への交代により米国が当たり前の米国に戻りつつあることも実感します。即ち、到底日本では想像も出来ない、医師・看護師に加えて全国にある薬局の職員へも訓練を行って、1 日百万人を超える素早いワクチン接種の実施を行っている様子に、いざと言う時には団結し、物量にモノを言わせる蘇った米国が見られます。米国は既に必要数の数倍に相当する 12 億回以上のワクチンを集めたそうで、日本の状況とあまりにも違うことに驚かされます。民主主義を旗頭に、人権問題や情報セキュリティ問題から独裁政権に厳しく臨むバイデン政権に声援を送りたい所です。

3 : 思い起こせば

戦中、戦後生まれの我々世代は日本が最も貧しかった時代に育ち、またいわゆる戦後教育の影響も強く受けています。さらに横須賀・横浜で育ったせいで朝鮮戦争、ベトナム戦争の関係で米国軍人が数多く近隣に住み、その家族（ベトナム戦争では父の友人であったヘリ隊の隊長が戦死）とも交流があり、また米国からの TV ドラマや映画の普及から、米国と日本のあまりの豊かさの違い、生活レベルの違いが身に染みていました。すなわち、米国は民主主義を主宰する国であり、自由平等の国、そして経済、政治、軍事等の全てにおいて世界のリーダー、またそれらの全てが善として認識していました。

その様な境遇にあった小生は工学部から電電公社へ入社、ソフト開発等多忙を極める中、留学もしないまま 39 歳の時に急に米国に赴任することとなりました。そのまま 8

年強にわたって実際に住んで米国を経験する事となり、種々裏の側面も見え、子供のころからの米国の認識を変える事となりました。San Francisco ではベトナム戦争によって精神的被害を受けた人々やヒッピーがたむろし、自由のシンボルであったユニオンスクエアやカストロストリートを中心に AIDS が死の病として大流行、マリファナの匂いがカフェーでは当たり前のように匂っていました。そして 1990 年 8 月イラクのクエート侵攻に対応して翌年 1 月に始められた湾岸戦争は米国の威信を高揚したのですが、これは 911 で知られる 2001 年の同時多発テロを誘発してしまいました。これを起こしたアルカイダを追ってアフガニスタンへ侵攻したところ、タリバンをはじめ幾つものイスラム過激派との戦いに巻き込まれて泥沼化し、米国の威信は次々と壊されていきました。経済面ではドル高基調から中国を中心に輸入が急増し、失業率も 8 % を超えて米国の経済を守る為にその中心とされた自動車、半導体、通信機、工業製品等に関し、日本をターゲットにした貿易摩擦、日本バッシングが始まりました。日本側も USTR や DOC とのコミュニケーションをとって摩擦を回避するために半導体等も工場を米国内に移転したり、自主規制も行いました。ただし、自動車については摩擦の中心でしたが、米国内の消費者の嗜好に沿ったものであるため話題の中心ではあったものの米国内に工場を設ける等の努力の結果落ち着いていきました。その様な状況で、いつの間にか中国の台頭がありました。即ち、安価で手に入れやすいという事で家具、衣料等あらゆるコンシューマー市場ですっかり定着してしまい、また米国企業の資本流出・企業進出もあって、米国はその状態から抜け出せなくなっていました。また従来、たとえ共産主義や独裁主義であっても、それは発展過程のステップで経済の発展があればいずれ民主主義へ変化すると期待する対中国楽観主義が一般的でした。しかしながら習近平が台頭してからは不正を理由に自分に従わない勢力を駆逐、ポストの永年化、また IT を政治的に駆使して情報による国民個々の統制と支配を強化しました。さらに周辺国、特に独裁主義や独裁化した国(トルコやミャンマー)への政治・経済面の強化によって国際的な影響力を強めており、その希望は無残に打ち砕かれた様に思われます。SNS や演説会で自信一杯の表現で露出が多かったトランプ氏の 2017 年の大統領就任で多くの公約の一つに中国から企業を取り戻す策がありましたが実効は上がらず、またメキシコとの国境に高い壁によって移民を止めようとしたが止まりませんでした。可愛い娘婿の関係からかイスラエルを優遇し、この関係もあってか公約の一つである中東からの米軍の撤退を実現するために、あるいは自身の大統領を継続させるためか、政府内の事前の調整無しにイランへの爆撃を無理強いして実現しようとし親族以外の有能な官僚やスタッフが離職してしまい、またトランプ自身に直言した高官を即刻退任させた等の数々の出来事がありました。大統領選挙の敗退が明らかとなると彼を熱狂的に支持した右翼や白人至上主義のグループの存在や活動を否定せずに、逆に扇動する様なスピーチを行い、これに従って全国から集合した多くの人々が議事堂へ乱入する事件まで起こしました。何故このような人物がいきなり大統領になったかも個人的に大いに疑問を生ずる所でした。

4 : 米国での思い出の一端 分裂が正常？

赴任したのは日米貿易摩擦の真ただ中、サンフランシスコの南 70Km 程のシリコンバレーでした。当時でも 6 車線以上の、しかも無料の美しい高速道路や、一日かけても回り切れないショッピングモールの規模は驚きでした。当時のシリコンバレーは intel や HP 等の半導体やパソコンが主体の産業構造で半導体が日米摩擦の主要なテーマの一つでした。現在はシリコンバレーというよりも Facebook や Google、Adobe 等ソフトウェアの大企業で IT バレーとしてさらに発展しています。

店舗といえば、日本でも有料メンバーシップで知られるコストコ(現地ではキャスコと呼ばれている)は当時プライスクラブでしたが、うず高く積み上げられた食品と酒の類、一軒の家が建てられるほどの建材や工具類、健康食品に加えて日本では処方箋が無いと買えないような医薬品、さらに中型ヨットや大型のジャクジまでその品数は数知らず、また安価なことも驚きでした。日本にも数件オープンしていますが、大きなカートで大きな買い物をするので、必然的に大きな駐車場と売り場の面積が必要となり、土地の安い処でないと開店出来ないのでしょうか。シリコンバレーで最初のお店はその北側に位置したパロ・アルトからさらに 10km 程北側のレッド・ウッド・シティに在りました。シリコンバレーは当時、北はパロ・アルト、南はサン・ノゼの間とされ既に土地や不動産は高騰し始めており、また生活費もそれなりに高くなっていました。しかしレッド・ウッド・シティとなると倉庫が立ち並び、また住居も古い小ぶりの家、また新しいものはアパートの類がほとんどで、いわゆる不動産価値の低い処でした。ところが、その直ぐ南隣に位置するアサトン市はお城のような大きな家ばかりで、各家の駐車場は数台分、フロントの庭とは別に森の様な裏庭を備えていました。両市の境界はアサトン側では裏庭の垣根と塀、その北側はいきなり建物の壁となっていて、物理的な境界は設けられていませんでした。が、家並みの違いははっきりして、両市の間で互いに交わらないとでも主張し合って居る様でその差は歴然たるものでした。日本でも新興住宅地とそれ以外の古い町並みで類似の状況はみられるものの、その境界のどちら側に住んでいるかでその人の社会的位置づけ、即ちステイタスを意識する事は余り無いでしょう。しかし米国では住所で人のステイタス(極端に言えば差別)を意識するという事なのだと思います。これらの状況は全米のいたる所で見られます。それで、あえて米国における境界について考えてみたいと思います。

5 : 境界とは

米国と日本で何が違うのでしょうか？ 米国は現在丁度 50 州からなっており、合衆国と呼ばれるようにその集合体となっています。要するに基本は州にあるということです。法律も罰則も州によって違い、州ごとに最高裁判所があります。州は基本的には米国内では独立していて、州兵からなる軍隊も持っており、州境に検問所を設けている州もあるくらいです。憲法上、連邦政府は米国外との交渉や戦争、また州にまたがる事項についてのみ関与するというのが建前です。下院は州民の、即ち人口によって人数が割り当てられますが、予算承認、人事や裁判も行う上院は各州から 2 名だけが割り当てられています。したがって 50 万人前後の人口の小さなワイオミング州と 4 千万人程を擁するカルフォルニア州のいずれも 2 名の上院議員を選出しています。この辺米国の制度の矛盾ととらえる向きもあり、大統領選挙の際の選挙人制度と共に議論のあるところかもしれません。要するにそれぞれの歴史を有する各州は、勿論全てではないのですが、主にヨーロッパの諸国から種々の理由、即ち宗教的弾圧や人種偏見から逃れる目的、さらに例えばアイルランドからは主食のジャガイモの感染から食物が不足してこれを求めて集団で米国へ移住してきたそうです。したがって宗教、あるいは人種毎にグループを作り、結果的に州を形成していったので、ごく自然に夫々の生い立ち、文化、人種を反映していったこととなります。移民の裏には激しいインディアンとの戦いや、時にはロマンの物語も沢山ありますが、これらは米国人により小説や映画として描かれています。最近ニュージーランドやオーストラリアを中心に原住民の民権の復活の方向にありますが、米国の原住民への弾圧・虐殺の歴史は余りにも激しいものでした。「中南米にはピラミッドが有るのに何故米国には無いのか」と尋ねた事がありますが、答えは「米国の領土は自分たちのものにするために全て破壊した。なお、南の某州の岸壁にはその一部が残っ

ている」でした。要するに徹底的に原住民を圧迫し、貧しい居留区へ押し込めたという事だそうです。有名なものの一つに金が発見されたヨセミテのマリポサ大隊による執拗な追撃があります。ロマンの話の方の一つには、米大陸にヨーロッパから移住しようとした初期のグループは飢餓に襲われ何度も失敗したそうですが、米国の祝日であるサンクス・ギビングの起源はニューイングランド地方に移住したピューリタンのグループが飢餓にさらされた時に原住民に助けをもらい、そのお陰で初めて定着に成功した際その原住民を招いて七面鳥をふるまったりとかの紹介もありました。ただし、今の米国人にとっては収穫祭がその起源であるとか、あるいは単に全ての家族が集まって七面鳥で祝う日位の理解になっているかも知れません。

それでは、州の中の市や町に関してですが、まず日本の住民票に相当するものはありません。引っ越してきても市役所に届ける必要はなく、選挙権を得るとか、あるいは何らかの支援やサービスを受ける必要が無い限り市役所等に行く必要もありません。例えばコロナワクチンを接種しようとしたら、国勢に関らず取得可能な運転免許証、原則米国に住む者に与えられる社会保険番号、いずれかの国のパスポートの何れかを持って申し込み、順番を待つことで住民票は不要なのです。地方税に相当する税金に関しても、会社員が個人で借家やアパートに住んでいる分には何ら払うことはありません。ただ、不動産を購入ないし所有した場合、固定資産税にあたる **Real Estate tax** は自治体の主要な収入源で非常に厳密で、専門職員が常に見て回って価値の査定をしているそうです。例えば屋根をふき替えたとか、一部でも設備を備えたとか改築したとかの際には速やかに課税額が変更されます。ただし同じ市や町の中でも上下水を必要としない農地等の場合は例外的に自治体に属さない、即ち不動産価値が上がっても非課税のままの場合があるそうです。日本と違うのは自治体の領域であっても属さないで独立している場合があることや、固定資産税の見直しが非常に綿密に行われているという事でしょう。

こうした状況に気が付くと、どの町に属するかで大きく違う不動産価値、即ち境界が気になります。何故そのような大きな差が出来るのでしょうか。

これはまた違う側面から見た場合ですが、出張の際に現地の友人から色々サジェスションを受けました。忘れられないものの一つに、「出張で出かける際に、部屋の上下に関らず必ず行先での一流のホテルに泊まるようにしなければならない」と言われた事があります。即ち、「米国では基本的に差別は禁止となっていますが、人間ですから値踏みをします。出張、即ちビジネスでは信頼できる相手か否かを宿泊するホテルで値踏みする」のだそうです。

同様に、よく「何処に住んでいるか」との質問を受ける事がありますが、これも値踏みされていると理解した方が良いでしょう。

米国の警察システムは日本と大いに違います。米国では警官は民間企業である警察学校を卒業して資格を得ます。そして町や市の警官として就職します。すなわち警官は町や市が基本的に雇い主ということです。警察は日本の様に警察庁を頂点にした一体組織というのではなく、町や市を守り、その住民に雇われた格好になるので住民に尽くす必要があります。財政が豊かな自治体では、その安全の為により多くの費用を警察に配分出来、税収不足の自治体ではその逆で安全でなくなり、結果的にリッチな人は住民とならず、また利益をあげる企業も来ないということになります。

一種の自由競争ということで、豊かな自治体にはよりリッチな住民が集まり、不動産価値が上がり、自治体はより豊かになって行き、貧乏な自治体にはより貧しい住民が住むようになってしまうということです。

6：米国の政治の一端

何度も倒産したことがあるので米国の金融機関はトランプには金を貸さないとかの評判がありますが、海外の金融機関から融資を受けているのか、ホテルやギャンブル場、リゾート、特にゴルフ場等で不動産王との名をほしいままにしました。何度も落ちても谷底から這い上がって頂点に立つ、まさにアメリカンドリームのような人で、熱狂的な支持者を持っています。大統領になるために幾つもの公約を掲げ、その中には首を傾げざるを得ないものもありましたが、大統領に当選してそれら全ての公約を全て守ろうとして歴代最も公約を守るとの評判も取りました。しかしながらトランプも4年の末期になって、社会の分断、差別、これに加えて新型コロナへの対応の多くの面で悪しき問題が表面化し、選挙で敗れた様です。何故トランプの末期にそのような問題が噴出したのかを振り返ってみたいと思います。

7：混じ合わないのが平和？

先ほど米国では町や市単位に住む人の層が違っている状況について説明しました。これは例えば皆さんがよく利用される JFK からマンハッタンに向かうロングアイランドの高速道路から見える人家の状況からもわかります。道路に近い処の家々では小さい庭に洗濯物がひるがえっているのが見えますが、少し離れた坂上のエリアの家々には緑が茂り、また花が咲き乱れますロングアイランドのマンハッタン側で小生が NY へ赴任した頃までは日本人学校も置かれ、NY の日本人町とも言われたクイーンズ区ジャマイカ地区でしたが、道路が比較的狭くて入子状になっており、当時から多様な人が道路の筋毎に人種に分かれて住んでいました。白人は殆ど見られませんでした。ユダヤ教の人々が真っ黒な僧服で行き来、アフリカの何処かの国のグループが民族衣装のまま買い物、韓国人もチョゴリで登場等まるで民族衣装展の様でした。ただ、彼らの家は別々の筋で殆どお互いに話し合う事はないと聞きました。しかし、街はいたって静かで争いは滅多にありませんでした。ここは米国に到着してしばらくの間古くから住んでいる知り合いに当面の世話になるところなのかもしれないと想像されました。こんなに人種が入り乱れても、綺麗に住み分けが出来、結果争うことが無く、平和に暮らしていけるのが大変不思議に思っていました。

ついでながらここを創立起源とした日本人学校は現地に展開する日本企業からの多額の寄付とそれに相当する日本政府からの資金で素晴らしい環境で高級住宅の多いマンハッタンから北側にあたるコネチカット州グリニッチに移転を完了しました。これは日本のバブル期だから出来た事かも知れません。ただ、その後バブル崩壊から学生数が減って経営が苦しいと聞きました。

8：叱られる文化と褒められる文化

さて、小生は CA 在任中に「叱られる文化と褒められる文化」という雑文をある雑誌に頼まれて掲載したことがあります。これは CA へ赴任して数学能力測定から娘が中学の 1 学期を終えたばかりなのに飛び級で中学の高学年へ編入、中学を 1 年で終わることになってしまいました。当然英語が分からないので、学校では沈黙、家へ帰ってから両親に教科書の説明でやっと何をしていたのかが解ったくらい。そうやって居る内に学校から表彰状を貰ってきました。曰く「最も静かで学級の邪魔をしなかった生徒の賞」、当然不思議に思い、学校のカウンセラーを訪ねたところ、「何でも見つけて表彰することで、学校に馴染み、励ます」という事だそうです。我々世代の日本では叱るのが当たり前で、結果廊下に立たされたり、竹の棒で叩かれたり、グラウンドを 1 周したり、いわゆるスパルタ式でした。即ち、叱られる事を恐れて勉学に励んだり、言いつけを守ったりでしたが、米国の学校では教師が工夫して何とか褒め方を研究し、これを実施していました。日本のやり方とは随分と違うものと思ったものでした。

叱られるのを恐れて学んだ者は叱られなくなれば止めてしまうかもしれません。しかし褒めるやり方では、褒められる事を際限なくやり続ける事でしょう。ここに、独創性やベンチャーが育ちやすいかの文化の違いが出るのかもしれないと考えています。ただ褒められる文化では褒められなくなると、自意識が満足できなくなって、失速状態に陥りやすく、即ちストレスを感じやすく、時にはその事から何か分からない怒りを生じてテロ類似行為やキャピタルへの乱入事件の様に我々の常識では考えられないようなとんでもない爆発を起こすのかもしれないと考える次第です。米国ではバイデン大統領の元で、従来ワクチンを 65 歳以上であったものを 16 歳以上に拡大し、この 7 月には米国人であるか否かに関らず全米に行きわたるとされ、感染者数が落ち始めています。我々の日本では EU 次第という事でスケジュールもはっきりされていませんが、叱られる文化では、常に一定のストレスがかかっており、「マスクを着用する、人とは距離を置いて生活する」等々コロナ対策等は馴染み安いので案外桁が 1 つ少ない所で遅いワクチンの到着まで時間稼ぎが出来るのかもしれません。(了)

JICA 海外協力隊 2021 年春募集

事務局

JICA 海外協力隊 2021 年春募集の募集期間は 6 月 30 日(水)正午までです。当会会員が応募しやすい案件を抜粋しましたので、奮ってチャレンジしていただければ幸いです。なお、6 月上旬に追加募集がありますので、詳細は下記サイトをご覧ください。

また、JICA 主催の説明会が通年で全国各地及び Web で多数開催されていますので、参加されることをお勧めいたします。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/>

<https://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/>

<区分欄> A：シニア案件、B：一般案件(20～69 歳)、C：一般案件(20～45 歳)

区分		国名・配属先	要 請 内 容
コンピュータ 技術	B	モンゴル モンゴル技術カレ ッジ連盟	高等専門学校を統括する連盟に所属し、傘下の 3 つの高等専門学校を巡回して、同僚と共に学生に対してコンピュータ技術を指導します。産業界に貢献できる人材の育成に寄与することが期待されています。
コンピュータ 技術	B	フィジー 上下水道局	フィジー全戸への安全な水の供給と適切な下水処理サービスの提供をめざしている上下水道局にて、EPS 装置の維持管理のためデータベースを構築します。また、現在運用中のデータベースの維持管理や使い易さの向上等改修作業へ助言と技術支援を行います。
コンピュータ 技術	B	サモア 通信情報技術省	サモア通信情報技術省において、官民から依頼のあったネットワークやデータベースの構築、モバイルアプリケーションの作成支援に取り組みます。
コンピュータ 技術	B	サモア 気象局	全国 9 か所に設置されている気象観測点(気象観測ステーション)から送信される気象データの自動送信システムの保守管理を行い、その技術を配属先の担当職員に指導します。
コンピュータ 技術	B	サモア 教育スポーツ文化 省 ICT 局	サモア教育スポーツ文化省が取り組んでいる生涯学習教育におけるネットワークやデータベースの構築、教育コンテンツの作成支援に取り組みます。
コンピュータ 技術	C	ホンジュラス フランシスコ・モ ラサン県教育事務 所	ホンジュラス中央部の中高校において、高等部の情報技術科の教員と生徒に対しプログラミング技術の授業を中心に技術的支援を行います。また、教員からのニーズに応じて知識をアップデートするための助言も行います。
コンピュータ 技術	B	モロッコ 国立デジタル教材 研究所	国立デジタル研究所において、低学年児童(障害者を含む)の学習効果を高める教材アプリケーションの開発を行います。同僚、今後他地域に派遣されるであろう同職種隊員とも協力し、国の政策である IT を利用した学力向上に貢献します。
コンピュータ 技術	C	ボツワナ オーディ応用美術技 術短期大学	配属先において、同僚と協力してネットワークおよびサーバ管理、トラブルシューティング、ウェブ構築等の支援に取り組みます。必要に応じて同僚及び学生に対しての指導にも取り組みます。
コンピュータ 技術	B	ボツワナ トロッケン教育大 学	配属先において、同僚と協力してネットワークおよびサーバ管理、トラブルシューティング、ウェブ構築等の支援に取り組みます。必要に応じて同僚及び学生に対しての指導にも取り組みます。

コンピュータ 技術	C	ケニア カプサベット・ナ ンディ上下水道会 社	ケニア西部の山間地域にある水供給会社で、日本の支援により整備された浄水場からの水の安定供給を目指し、無収水管理や給水拡張計画などの基盤となる GIS を用いたマッピングを現地スタッフと共に行います。
経営管理	B	エチオピア マリージョイディ ベロップメントア ソシエーション (MJDA)	NGO の組織運営能力強化支援として、団体の担当者向けに資金調達やマーケティング(団体の宣伝やドナーへの交渉)にかかる手法を伝授するとともに、担当者と協働で実際に外部ファンド申請用の事業提案書等を作成します。
経営管理	B	エチオピア エチオピア盲ろう 協会 (ENADB)	組織規模の小さな現地 NGO で、団体が実施するプロジェクト管理業務全般をサポートします。新規事業の立案や、現行事業のフォローアップ、事業報告に携わり、担当スタッフの業務遂行能力の向上に貢献できる活動内容です。
経営管理	B	エチオピア エチオピア障害者 協会 (FENAPD)	ニーズ調査、ドナー開拓およびプロポーザル作成等の業務を通して NGO の資金調達能力向上に貢献するほか、継続的な資金確保のために、適切な事業管理方法や効果的な事業報告の手法の提案が期待されています。
経営管理	C	ケニア マクエニ・カウ ンティリファール 病院	半乾燥地域にある地方都市の公立病院で、品質改善チーム(QIT)に所属し、医療サービスの質の向上と業務効率化、コスト削減を目標に 5S-KAIZEN 活動の普及・定着に取り組みます。
経営管理	B	ケニア ティカレベル 5 病 院	首都ナイロビに隣接する都市の公立病院で、病院内で組織されている品質改善チーム(QIT)に所属し、メンバーと共に医療サービスの質の向上を目標に 5S-KAIZEN 活動を行います。スタッフの意識定着、品質向上に向けた取り組みの実施を支援します。
品質管理・生 産性向上	A	ボツワナ ボツワナ国家生産 性センター	配属先において、同僚と共に同国の民間の中小企業に対して経営改善及び生産性向上等のコンサルテーション活動を実施します。これらの活動を通じて同僚に対して実践的な技術の指導を行います。
	C	イジー シンガトカ病院	地方の公立病院で、5S-KAIZEN-TQM チームと共に活動しながら病院のマネージメント強化が行われるよう、質改善の活動運営支援を行い、保健医療施設管理やサービスの質の向上を目指します。
	B	フィジー 医薬品供給センタ ー	フィジー全土の政府管轄下の保健関連施設に医薬品等を供給している医薬品供給センターで、同僚スタッフと共に医薬品の適切な管理、在庫管理等に取り組み、供給システム改善への協力を行います。
マーケティング	A	モンゴル モンゴル商工会議 所	商工会議所に所属し、マーケティング分析を行い、加盟企業や配属先同僚に対し商品開発・販売戦略に関する助言を行います。特に畜産物・農産物バリューチェーンに対しての販路開拓等へのサポートが期待されています。
マーケティング	B	モンゴル 中小企業庁	中小企業庁に所属し、国内市場の販売率活性化、市場分析、商品開発等に関する幅広い問い合わせに対してマーケティング分析を行い、助言する活動が期待されています。
マーケティング	B	モンゴル Development Solutions	中小企業支援を行う NGO で、地方特産品の商品開発及び販路開拓等に関し、マーケティング分野の支援を行う活動が期待されています。

マーケティング	B	グアテマラ コンソーシアム・ サンティアゴ・ア ティトラン市協会	天然染色素材や伝統的な刺繍を取り入れた民芸品の製作、販売を行い地元女性の職の創出、自立を支援している協会において、地元女性たちが制作した民芸品の販路拡大に向けた海外・国内のネットワーク構築、製品の品質向上のための情報収集、提案等を行います。
マーケティング	B	エチオピア ラブフォーチルド レン(LCO)	広報人材に対する技術支援と広報ツールの改良・開発を実施し、組織のプレゼンテーション能力や資金調達能力の向上に貢献します。現地 NGO の組織運営能力強化に携わることのできるポジションです。
マーケティング	B	エチオピア エチオピア障害者 協会 (FENAPD)	団体の広報人材に対して技術指導を行い、組織の広報能力向上に貢献します。また、外部(ドナーや個人支援者)に効果的に実施事業が紹介されるよう、ウェブサイトやパンフレット等の広報ツールの改良にも取り組みます。
観光	A	キューバ 観光省観光専門学 校(FORMATUR)	観光省観光専門学校本校において、観光業従事者対象のサービス向上プログラムを計画・実施します。特に、アジア圏を含む各地の観光客のニーズに応じた質の高い観光サービス提供に関して指導・助言します。また、上記活動に必要な事前調査や教材作成をします。
観光	B	チリ サンパブロ市役所	地方の市役所の地域振興課にて同僚とともに日本の一村一品運動を参考にして、地域独自の資源を調査し、市場調査等のマーケティングを行います。また、地域おこしのための様々な施策を提案し、地域経済の活性化を目指します。
観光	C	ジブチ ジブチ観光公社	ジブチの観光振興を行う公社にて、国内観光産業の現状を把握と課題を分析し、ジブチ観光業の開拓・発展につながるアイデアを提案します。また、提案する活動の実施を支援します。
PC インストラクター	C	グアテマラ マイア協会	女性の社会進出を柱に教育を行う女子中等学校で、勉学や就職後に生きる IT に関するカリキュラムを作成し、生徒や同僚に指導を行います。IT 知識のみならず物事を横断的に捉えられる人材が求められます。
PC インストラクター	B	エスワティニ 教育訓練省 (エラ ンゲニ高校)	公立の高校において、限られた機材を駆使して、効果的な ICT 授業の実施に向けて、同僚の教員と協力して授業改善を行います。
PC インストラクター	B	エスワティニ 教育訓練省 (ンラ ンベニ高校)	公立の高校において、限られた機材を駆使して、効果的な ICT 授業の実施に向けて、同僚の教員と協力して授業改善を行います。
PC インストラクター	C	ジブチ パルムレ中学校	首都の中学校に配属され、教育省推進の ITC 教育により整備される電子黒板・PC・タブレットの活用状況を把握・分析します。また、それらを学習ツールとして適切かつ効果的に活用できるよう教員にアドバイスし、実際の授業でも必要な支援を行います。
PC インストラクター	C	ジブチ ブラオス中学校	首都の中学校に配属され、教育省推進の ITC 教育により整備される電子黒板・PC・タブレットの活用状況を把握・分析します。また、それらを学習ツールとして適切かつ効果的に活用できるよう教員にアドバイスし、実際の授業でも必要な支援を行います。
PC インストラクター	C	ジブチ フクザワ中学校	日本の無償資金援助で建設された中学校において、IT 教室の環境設備の状況把握と課題分析を行い、課題解決の方策を講じます。また教員・生徒に情報教育についての基礎的な知識と技術の指導も期待されています。

国際交流基金の動き

日本語パートナーズ派遣事業の募集

事務局

国際交流基金(JF)は、日本語パートナーズ派遣事業について6月24日(木)まで募集しています。海外と日本の架け橋になりたい方、[海外で日常生活・協力活動してみたい方\(旅行・出張ではなく\)](#)など、奮ってご応募いただければ幸いです。

<https://jfac.jp/partners/apply/> <https://jfac.jp/partners/event/>

マレーシア	募集人数：18名	派遣期間：2022年2月～2022年10月
カンボジア	募集人数：1名	派遣期間：2022年2月～2022年9月

1. 趣旨

幅広い世代の人材をアジアの中等教育機関へ派遣し、現地の日本語教師と日本語学習者のパートナーとして、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、アジアの日本語教育を支援する。同時に、日本語パートナーズ自身も現地の言語や文化についての学びを深め、アジアと日本の架け橋となることを目的とする。

2. 活動内容

- (1) 現地の日本語教師が行う授業への協力
- (2) 授業の教材作成等への協力
- (3) 授業や課外活動における生徒との交流(日本語での会話、文化活動への協力等)
- (4) 派遣先の JF 海外拠点等が実施する日本語教育事業への協力
- (5) その他、現地の要望に応じて、地域における日本語学習支援、日本文化紹介を通じた交流活動等

3. 待遇

滞在費(月額10万円～13万円程度)、往復航空券(ディスカウントエコノミー)、旅費等の支給と住居が提供される。

4. 応募要件

- (1) 満20歳から満69歳で日本国籍を有する日本語母語話者の方
 - (2) 日常英会話ができる方(英語で最低限の意思疎通が図れる程度)
 - (3) 派遣前研修(約1か月間)に全日程参加できる方、等
- (注) [日本語を教えた経験がなくても良い](#)。特技のある方、[人生のキャリアを積んだ方](#)、アジアとの交流に熱意を持った方の応募が期待されている。

定年後の世界

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智



定年本が数多く出ているが。ほとんど共通しているのが、①地域社会への参加②夫婦そろっての旅行③趣味三昧④学び直しの四つであるが、ひとくくりで言うと「暇つぶし」である。定年後は、別の表現で言うと、①教育と②教養ならぬ「今日行くところがある」と「今日用がある」ならば、まあまな生活が送れるというものだ。しかしこれとてまさに「暇つぶし」の変形と言わざるを得ない。

私の主張は、暇つぶしはやめよう！である。いわゆる定年は、会社人生の終わりを意味する。会社人生という、人事や生き方まで他人に縛られるから、そこから抜け出した時何をすればいいのか迷ってしまう。

定年まで待って本当に自分がしたいことはあるのか？それが無ければ、答えは二つ。一つは無為徒食、二つ目は、起業である。無為徒食は文字通り、禅僧のように無為に過ごすこと。あらゆる「しがらみ」から解き放たれ、自由な世界に遊ぶことである。前述の四つの行為、①地域社会への参加②夫婦での旅行③趣味三昧④学び直しはいずれもしがらみだらけだ。

後世になにか残したいなら、やはり起業だろう。これは、経験上も一筋縄ではいかない。これで食べていくだけの糧を得るには相当の才能と努力がいる。「痛くない注射針」を発明した起業家は「技術より世渡りだ」と言っているが至言である。市場で評価されるには世渡りが必要で、これは、普段の付き合い、会社員時代からのコネクションがモノを言う。

自身は、定年を経験していない。49歳で脱サラ後、起業して今日まで生きながらえている。自分の住む市で「IT化に関する審議会」の委員をしたときに、市役所の職員が、「定年退職、定年退職」と折あるごとに言う。彼らには脱サラ、起業の概念は無いのだろう。今や大学生の人気ナンバーワンの職業が国家公務員と地方公務員だから無理かもしれないかもしれない。今やコロナ禍で打撃を受けた企業に対し国や地方が保証をしているが、金額的には、「焼け石に水」の感がぬぐえない。事業を展開しているところの金額は一桁違う、否二桁かもしれない。しかし、焼け石に水でも全くないよりはずっとましである。

幸い自分の住んでいる市は財政豊かで、県からの補助を一切受けていない。そこで、市長が小規模事業者や個人事業主でコロナ禍で売り上げが減少した住民に対し、10万円の給付金を出すことになった。自分も申込みぎりぎりの段階でこれを知り、早速申請した。

同時にこれは良い制度なので、「市長への提言」の中で、「モチベーションが上がる」としてメールで称賛したところ、ほどなくして市長からも返信が来た。結果はまだ知らされていないが、楽しみではある。自分は74歳で来年から後期高齢者の仲間入りだ。どうしても働かざるを得ない事情から働いているが、定年後の「お金と暇のある恵まれた人物なら無為徒食が一倍良い」のだ。無理に世間と自分を合わせることは無い。あらゆる世のしがらみから解放されて禅僧のような全き自由な世を謳歌して欲しいものだ。

(完)

「終わった人」・・・内館牧子を読んで

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智

好角家、元横綱審議会委員で脚本家・内館牧子の映画化もされた話題作である。企業小説とも言っても良いほどのカイシャの取材が徹底している。メガバンク、零細企業、ソフトハウス、海外ビジネスも出てくる。久しぶりに納得の読後感である。今まで多くの「定年もの」の小説やエッセイを読んだが、これほど赤裸々に実態を描いたものは無かった。

主人公は、岩手の名門高校・ラグビー部主将、東大法学部卒、メガバンクの企画部副部長、絵にかいたようなエリート街道を進み、次は役員かというところで、49歳の時、子会社に出される。その後、63歳の時、その子会社の専務でいよいよ定年を迎える。この時、「定年は、生前葬だ」と感ずる。つまり、本の題名通り「終わった人」になったのだ。これからは、毎日が日曜日。仕事がすべてに人生だっただけにむなしい砂をかむような9か月を過ごす。その間、ハローワークに出向くが、ある零細企業の面接では、「あまりにも経歴が立派すぎる」ということで不合格。が、突然、スポーツジムで知り合った三流私大卒のベンチャーの社長と知り合い、年俸八百万円、個室と秘書をあてがわれた極く好条件で迎えらる。

ところが、順調に顧問生活を続けるうち、その誘ってくれた社長が若いのに「大動脈解離」で急死する。そこで、人生が急展開、若い社員などに押されてとうとう社長に祭り上げられる。銀行マン出身で「代表」はいかに大変かを知っていながら、まさに「終わらない人」になったわけだ。顧問の気楽さに比べいかに社長業が大変かを実感しながらも充実した日々を送っていた。ここで、また運命が急展開、ミャンマーの取引先が倒産、零細にしては、巨額の未収金が発生、しまいには、そのベンチャーも連鎖倒産する。ここで、多額の債務（9000万円）を自ら抱え込む。これがあらずじだが、自身の会社員人生、先輩、後輩を見ていて、出来事が随分と重なり、また同じ感慨を持つ。ここでコメントすると以下のようだ。

- 1) 恋愛も出てくる。まさに、相手がカルチャーセンターの講師で渡辺淳一の失樂園を思わせるが、満足な結果では終わらず、不完全燃焼だ。「めしつき一般オヤジ」で終わってしまう。この、表現、あるCAに言わせると「ご馳走おじさん」となる。
- 2) なぜ、取締役になれなかったのか？協調性に欠ける欠点があったようだ。つまり、「世渡りが下手だった」ようだ。
- 3) ミャンマーの取引先の倒産の可能性をなぜ見抜けなかったのか？海外の企業の信用調査「DUE DILIGENCE」が甘かったのだ。
- 4) 国内のビジネスの柱がいくつも無かった。つまり、多角経営が出来ていない。
- 5) 銀行マンは保守的で、金庫番には適するが、事業拡大には向いていない。
- 6) その保守的な銀行マンがやすやすと経営者保証に印を押すとは、甘い。
- 7) ベンチャーには特有の経営上の難しさがある。
- 8) 東大法学部、メガバンク出身という成功体験がかえって仇になった。

その他、時代の流れを示すものとして、チャレンジングな高校生は東大より、グローバルな昨今、ハーバードやケンブリッジを直接めざすとかという記述も出てきて、さすが、内館さんらしい研究熱心さである。いわゆる、「定年もの」に無い鋭い表現は、「公園や図書館、スポーツジムはジジババで一杯とか、昨今の流行語では、「離婚ならぬ卒婚」とか、「東京の高校出身者が都落ちでない」定義は、進学先が「旧七帝大か医学部」だとか、目からうろこの感がある。既に「団塊世代は遠くになりにはけり」だ。是非、一読を薦める。(了)

ハンガリー・オーストリア・ドイツ俳柳紀行(1)

(2019年5月6日～16日)

元 JICA シニアボランティア
北垣 勝之

未知の道旅する心満たすかな
羽田発日付も変わる深夜便
旅立つや星がきらめく菖蒲の夜



今回の旅の宿泊地でドーハ、ブタペスト、ザルツブルグは初めての逗留、どんなハプニングが待ち構えているか興味津々である。旅路は未知なる道に心惹かれる。その一方、二番煎じの既知の道 欧州に夢を運んだドナウ川は、狙い処がはっきりして明確な仮説を立て易く、それを検定していく楽しみがある。とにかく出かける前は希望と期待の塊みたいなもの、旅のしんどさなぞ微塵もない。折しも5月5日は端午の節句、本来なら菖蒲湯に浸かり晩酌で一杯のところ、まずは羽田のラウンジで前祝いしてから機上の人となる。第3句「菖蒲」は「勝負」に通ず。

摩天楼一炊夢見るゲストルーム
ラマダンも夜景燦然ドーハ市街

カタールのドーハ空港は今まで何十回かトランジットで通り過ぎるも空港外へ出たことは無く、街そのものは上空から眺めるだけだった。今回長旅の疲れを少しでも減じておこうと一泊することにした。場所は飛行場から遠く離れたビジネスセンター地区、高層ビル街のど真ん中、一応名の通ったホテルである。近くのバス停を降りて歩く。地図の上では至近のはずだが道に迷い、ビル街の駐車場をうろうろ、人っ気のない地上に出て彷徨い、お目当てのホテルの裏口を見つけて入館すれば守衛が1人、言われるままに背負い荷物をエックス線装置に通す。そこから正面玄関フロントへと歩く。やれやれ！空港近くのホテルなら簡単なのに手間をかけてしまった。バスではなくタクシーで乗り付けるべき場所のようだ。



人の性高きに住まう優越感（ドーハ）ペルシャ湾油上に浮かぶ蜃気楼

チェックインを済ませ通された部屋は、地上36階のスペシャル・ゲストルームである。カタール航空のキャンペーンに乗っかって正規料金の10分の1の宿賃にも拘らず、まさかの豪華なツインのベッドルーム、他に広々としたリビングルーム、書斎の間、化粧室は二つ、テレビも2台ある。びっくりついでに窓外を見ればライトアップされた夜景が一面に広がる。これがアラビア半島の一角、狭い砂漠の地で毎年一人当たりGDPの世界ベストスリーを競っているカタールなのかと思ひ知る。私達の本ホテル投宿の目的は‘Just Sleeping’、フロントにその旨伝え、念のため翌朝午前3時のアラームコールをお願いする。滞在24時間足らずの間にゴージャスな一炊の夢を見る。「中東跨ぐ旅の途次、雨水を凌ぐ庵あり、干天俄か慈雨降りて、一瞬夢みる昇天消地」、まさに神様の御蔭、ア

ルハンドリッラ！

ラマダンにビール買うにも一苦労 ミュージアムもスークも夜間の営業や

イスラム圏にはラマダン(断食月)の決まりがある。これはヒジュラ暦(太陰暦)の9月に当たり、日出から日没まで水と雖も一切口にすることができない。太陰暦の一年は354日で回る。太陽暦より11日短い。私達の到着した日はまさに断食の禊が始まる日であった。道理でショッピングセンターのレストランやカフェは全て休業状態、モール全体が閑散としている。その中で買物客が大勢詰めかけ混雑していたのがカルフル(スーパーストア)、皆々ラマダンに備えて大量の食品を買い込んでいる。我等はせめてビールでも手に入れてホテルの部屋で静かに寝酒でも飲もうとレジに並ぶが、店員は別のレジに行けと相手にしてくれない。2~3回試行錯誤を繰り返し、空いているレジでようやく買うことができた。迂闊にもラマダンの流儀を忘れていたのだ。イスラムの現地人に配慮し、酒類はそっと隠れて買わねばならない。食料調達だけでなく地元で有名なイスラム美術館やワキーフ市場も、日没後に開業という変則的な運営になっている。従って平時と違い観光客は少なく、ホテルの超割安待遇もラマダンの影響によるものではなからうか。

人も荷も全て自動化チェックイン ストップオーバー・カタールに学ぶ未来都市

ドーハのハマダ空港にて初めてチェックインを体験する。24時間空港なので人の動きは多い方だが、それでも乗客はまばら、手続きはスムーズに行われる。持参のコンピュータ・アウトプットシートを機械にかざせば、コンビニのレシートみたいな搭乗券が出てくる。次にこれを係員の居ない預託バゲージ・カウンターの機械にかざすと、荷札が出てくる。バゲージに張り付けトレイに送り込めば荷物は自動的に搬送される。かくして無人のカウンターで搭乗手続きは全て完了。勿論、我々のような機械に不慣れな者には、手取り足取り導いてくれるガイドが1人いるだけである。無人チェックイン(unmanned check-in)空港がすでに現出している。

空港からの海岸通りはヤシの樹が続く。沿道には所々緑地帯が整備され、色とりどりの植栽や花壇の公園もある。此処は半世紀も前までは荒涼たる砂漠と殺風景な漁村が点在する浜辺であったはずだ。そういえば東端の地にはザ・パールという天然真珠産出の面影を残す一角もある。だがそれらは今や高級リゾートに様変わりしつつある。街中にゴミが見当たらない。他の中東諸国ではプラスチックやポリエステル系のごみが散乱しているというのに、此処ではタバコの吸殻すら落ちていない。早くから欧米以上に文化度の高い国造りを標榜していたからであろう。人材登用と移民受け入れ統制、外国企業活用、イスラム戒律の厳守と高度技術開発、アルジャジーラの自由・先進的広報とも相俟って国力を向上させてきた国である。

空港外写真撮影ままならず バスタクシー乗り分けドーハは身分制

ドーハ・ハマダ空港周囲の植栽に綺麗な黄花が咲いていた。名前が分からなかったので写真に撮り、帰国してから調べようと思った。すると近くにいた清掃員の小父さんから「空港周辺では写真撮影は禁じられていますよ」と忠告あり、「あゝ失礼しました」。ただそれだけのことだったが、よく考えれば国防や宗教上の意図から写真撮影禁止区域がある所は多い。中南米でも現地人を無断でカメラに収めようとして石を投げられた某

私大教授がいた。私自身はエジプト・ルクソールで荷馬車を牽く牛の写真を撮り、飼い主から金を払えといちゃもんを付けられたことがある。勿論、即座に「人間じゃない動物が対象だ」と怒鳴りつけて無視した。中東では黒衣の女性を撮ることは難しい。遠くから望遠レンズでこっそり仕留めることになる。

ホテルから空港に向かうタクシー、運転手は黒人、どう見てもカタール人ではないと思い「どちらのご出身ですか」と問えば、「1年前にウガンダから来ました」と言う。運転席の上部に張り付けてあるドライバー証明書の顔写真は白人系の人物、タクシー業界の裏社会を覗き見た思いである。運行されているバスの乗客は現地労働者、気の利いたカタール人はマイカーないしタクシーを利用するのが常識のようだ。以前、ドーハ空港のトランジットの折、カタールで働く若いイギリス人家族に出会った。子どもの教育費が高くて困るところぼす。はて異なることを言う人だ。当地では教育費も医療費も無料のはずだがと思って突っ込んでみると、「無料なのはカタール人だけ、外国からの出稼ぎ者は正規の費用を払わねばなりません」と答える。彼は母国イギリスに一時里帰りするところだった。教育費はともかく彼にとって医療費は、イギリスの方が無料でかつ手厚い治療が受けられるはずである。

名にし負う好きも嫌いも温泉じゃ ブダペスト温泉浸かりローマ偲ぶ 緑葉に野鳥囀る野天風呂

ハンガリーのブダペストは、古今東西名にし負う温泉の街である。それぞれ風趣ある温泉施設が幾つか散在し、地元民はおろか観光客の憩いの場となっている。早速、そのうちの一つキラライ温泉に出向く。オスマントルコ朝の1570年に造られたものだが、湯船のある本格的温泉、別に熱いサウナ式蒸し風呂や冷たい水風呂もある。湯治客も来るのか控室も多い。男女混浴と言っても皆水着を着用して入浴しなければならない。他にジャグジーを備えた小風呂や、広い中庭のど真ん中にしつらえた露天風呂もある。私が一番気に入ったのは、この野天風呂である。冷たい外気に触れながら適温湯の噴流に身を任せることができる。丁度、何語か知れぬ言葉で話し合う髭面の若い男二人と小さな湯船に浸かりながら、鄙びた陋屋や篠懸の大木に囲まれ、時々シジュウカラなど鳥たちの囀りの中で入湯する。少々古臭いが歴としたローマンバース、大いに癒される。

わが処女地切符買うにも人の情 若者に助けられたる旅路かな

ブダペストのリスト・フィレンツェ空港に着く。ドーハとは様変わりで一昔前のローカル空港といった感じである。バゲージクレイムの動きも遅鈍、かなり時間が経ってからハンガリー通貨への換金、そしてバス乗り場へ急げば、自動切符販売機の前は慣れない手つきで操作する客でいっぱいだ。手に入れたフォリント貨幣を全部入れても僅かながら料金に足りない。アテンドするバス会社のおっさんが手持ちの少額コインを投入して、ようやく切符をゲットする。自販機は高額紙幣を入れてもお釣りが出でこないで、不足分はバス会社が支払ってくれたことになる。この後もリリカルな七五調律詩「旅路遙かにぎすぎすと、窮地に遭うも助けあり、心落ち着く人の情、車中に満つる呵々と声」の出会いがある。

市街中心部のデアーク広場へは直通バスもあるが、料金をケチり市バスと地下鉄を乗り継いで行くことにした。これがまた厄介なことになる。終点で降りて地下鉄の駅探しをしなければならない。ところが捨てる神あれば拾う神もある。大混雑の市バス内、たまたま座れた席の隣にスマホを操る大学生の青年がいた。丁度1年前、日本へ旅行に行

ったとか、それが話のきっかけでブダペスト交通の手ほどきを受ける。彼のスマホには東京・浅草、新幹線・富士山、京都・伏見稻荷など、その時撮って来た写真が連綿と収納されており、期せずして日本絵巻物を通覧する羽目になる。専攻はITソフトだと言う。彼の導きによって地下鉄の乗車もスムーズに運び大助かりであった。

翌日は王宮見物の後、ブダペストの北約 20km にあるセンテンドレの探策に出掛ける。14C ドナウ河畔にできた交易の街と云われるが、オスマン朝から逃れてきたセルビア人が築いた街である。教会等街中の目立つ建物は概ね 17C にできたもの、こじんまりとした街区に当時の生活文化が息づく。ブダペストから郊外電車で凡そ 30~40 分、途中は長閑な田園風景が広がり、古い駅舎に廃車、ほとんどが無人駅とあって懐古的風情を楽しむことができた。この鉄道の切符は自動券売機で買わなければならない。慣れないフォリント貨幣を投入しながら苦戦していると、老母と一緒に青年が手助けしてくれた。発車間際だったが、この人たちの協力によって何とか電車に乗り込む。そうでないと 30 分以上も次発の電車を待たねばならないところだった。

複雑な歴史が匂うブダペスト 目抜き通り行きつ戻りつ街歩き

デアーク広場から英雄広場まで、地下鉄 1 号線上のアンドラーシ大通りを往復する。行きは左側の歩道を、帰りは右側の歩道と並木道の大通りを散策、時々路傍のベンチに腰を下ろして一休止、新旧種々雑多の建物を品定めしながらブダペスト市街の景観を楽しむ。

スタートは大通りから外れるが、初代ハンガリー王イシュトヴァーンの名を冠した大聖堂(高さ 96m)、これはエステルゴムにある大聖堂(高さ 100m)に次ぐ大きさ、まずはハンガリーの堂々たる聖堂に驚く。ついで国立オペラ劇場、折悪しく補修中で全体がネットで覆われ入館できない。前庭に作曲家リスト・フェレンツ像を確認するにとどむ。続いて建物の底に‘**TERROR**☆**TERROR**’の透かしが異様な「恐怖の館」、ここは、第二次大戦中はナチスの支部、共産主義時代は秘密警察本部があった所。その先道路反対側にはリスト記念博物館があり、隣接する国民人形劇場へは面白そうな人形に誘われて入館する子供たちの姿があった。その他、作曲家コダーイが住んでいた博物館など芸術・音楽に関連する施設が点在する。大通り突き当り英雄広場にも国立美術館、現代美術館などハンガリーの文化遺産がひしめき、とても短日月で見聞すること能わず。英雄広場の中心には 1896 年に建てられた建国千年記念碑(高さ 35m)が建つ。なお、途中のアンドラーシ通りとテレーズ通りの交差点に建つビルの屋上から、今日のハンガリー経済を象徴するかのようにファーウェイとサムスンの大看板が異彩を放っていた。さて、この二つの宣伝いつまで続くか見ものである。

ドナウ川黄禍に淀む遺産都市 籍不明市場群がる観光客

ブダペストはドナウ川を挟んで東のペスト地区と西のブダ地区からなり、あわせて「ドナウの真珠」と称され世界遺産になっている。国会議事堂、鎖橋、王宮、マーチャース教会、漁夫の砦など、名所はどこも観光客で溢れている。特に中国人のグループツアーが大型バスで次々とやって来る。その渦に巻き込まれたら最後ドナウの真珠を愛でるどころではない。這う這うの体で逃げ出すに限る。王宮の丘からドナウ川に沿って閑静な住宅街に下る。すると私達以外は誰もいない歩道を利用して、高校生が 4 人ずつ短距離走の駆けっこをしていた。総勢 40 人位、スタート合図は赤シャツ、短パンの体育教師である。車もめったに通らない丘の中腹、緑の樹々に覆われた一般道が運動場とは素晴ら

しい。教官の指差す先には年代を感じる立派な校舎があった。屈託なき若者たちとの一会に旅の疲れも吹っ飛ぶ。



ブダペスト文化が宿るランドマーク(王宮)

ドナウ河畔黄昏よりも夜景佳し

戦争も平和も通った鎖橋

高校生公路で競走体育指導

ブダペストの地下鉄は欧州でも最古の起源をもつと言われている。現在4路線の内M3とM4を乗り継いで中央市場に行くことにした。ここの地下鉄と言えば地下深く、上り下りのエスカレーターのスピードが速い。深度、速度ともロンドン地下鉄を凌ぐのではなかろうか。場所によっては地上に出るのにエレベータを使った方が便利で安全かもしれない。ゲッレーロの丘を正面に見て自由橋方面に少し歩くとお目当ての市場がある。場内には生鮮食品から衣料、雑貨まで多種多様な店舗が並び、土産物屋やレストランなど何でもある。ために地元民はおろか観光客でいつも賑わっている。丁度、午餐時とぶつかり狭い通路は人でごった返す。ハンガリー音楽の演奏が鳴り響く中、手頃なビュッフェ方式のレストランで昼食を摂る。隣の人は何人か、何語をしゃべっているかも判らない喧噪の中での食事である。帰りしなに銘酒トカイワインを1本購入、せめてハンガリーの思い出にする。



恐ろしやナチスもKGBも本部とす(ブダペスト)

主なクリムト館(ヤカ)静かなり(ウィーン)

リストさん鍵盤ベンチ有難う

クリムトや日本出稼ぎ留守訪問

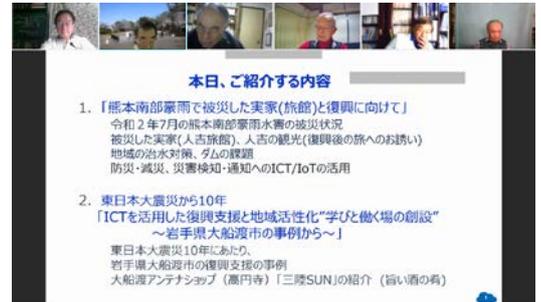
オーストリアを代表する画家グスタフ・クリムト(Gustav Klimt:1862~1918)の名画を常設展示しているベルヴェデーレ宮殿を訪れる。土地勘はあつたはずだが、ホテルから至近の場所にも拘わらず勘違いし遠回りをしてしまう。何人もの人に道を尋ねてようやくたどり着くも閉館時間になってしまった。ヴェルサイユ宮殿を模した広大な庭園だけ散策し、次の目的地へと足を運ぶ。今回はこれで良し。というのも彼の主作品は東京都美術館の「クリムト展ウィーンと日本1900」に貸出中、帰国後日本でじっくり鑑賞すればよい。主の居ない立派な住まいだけを見てまずはご挨拶とした。

クリムトの作品は浮世絵の影響と金箔使用、平面画法になるものも多く、その変化の流れを東京に戻って確認する。父は金工職人、兄弟も美術関係の家系、さらに描画を競う友人にも恵まれる。ウィーンでは従来の宮廷絵画に飽き足らず、「分離派」を結成(1897年)、斬新な芸術の創出を目指す。「女の三世代」、「ユディットI」等の名画を残し、さらにデザイン性を帯びる「ベートーヴェン・フリーズ(部分)」や、晩年にはザルツカンマーグートに移り住み「丘の見える庭の風景」など癒しの風景画をものす。興味尽きない異質の画家である。

第7回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

事務局

第7回 ICT 海外情報ウェブサロンが2021年4月17日(土)19時30分～21時、ウェブ会議室において開催された。堀尾健人様(中小企業診断士・ITコーディネータ)から「熊本南部豪雨で被災した実家(旅館)と復興に向けて」のプレゼンがあり、昨年の熊本南部豪雨水害の被災状況、被災した実家(旅館)、人吉の観光(復興後の旅へのお誘い)、地域の治水対策、ダムの課題など、さらには東日本大震災10年にあたり、岩手県大船渡市での災害と復興支援の事例や、高円寺にある大船渡のアンテナショップ「三陸 SUN」(旨い酒の肴)などのご紹介があった。主な話題を以下に示す。



- ・近年は毎年、大きな災害が発生している。

- ・実家の「人吉旅館」は昭和9年の創業時の姿を残し、近代和風建築としての良質な造りが「国の登録有形文化財」として高く評価され、落ち着いた素晴らしい旅館である。



- ・2020年7月4日、熊本県人吉市を襲った豪雨により、人吉旅館は壊滅的な被害を受けた。しかし現在、復旧作業を急ピッチで実施しており、今秋には一部再開するので、ぜひいつかお越しください。

- ・治水対策としては、気候変動や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」へ転換する方向である。

- ・12年前に計画を白紙撤回した球磨川水系の川辺川ダム計画が復活に向けて動き出した。

- ・普段は水を貯めず、大雨時のみ貯める流水型ダムにすることにより、環境への負荷を軽減できる。

- ・防災・減災、災害検知・通知へのICT/IoTの活用事例として、河川監視カメラ、農業用水路の冠水遠隔監視、有害鳥獣遠隔監視、熊本市ハザードマップ(スマホ版)、東京都水位測定スマートマンホールなどがある。

- ・東日本大震災において、福山 宏氏は岩手県大船渡市を中心に復興支援した。つむぎプロジェクトを立ち上げ、身元確認システムの構築、Wi-Fi 防災情報基盤、子供たちの学習支援、ねまらいんコミュニティ放送、コミュニティづくりパソコン教室、大船渡市ふるさとテレワークセンター、ギークハウス三陸大船渡シェアハウス、スマートキャリアカレッジ、スマートビジネスオフィス、自転車モトクロス BMX レースコースなど、数々の施策を展開し、「みんなが生き続けるためのシステム」を創っている。

- ・大船渡市は2017年3月、東京都杉並区高円寺(丸ノ内線東高円寺駅より徒歩2分)に大船渡アンテナショップ「三陸 SUN」を開設した。ぜひ一度、お越しください。

人吉旅館 <http://www.hitoyoshiyokan.com/> 三陸 SUN <http://sanriku-sun.com/>

<事務局注>堀尾様のプレゼン資料は、同氏のご厚意により、下記サイトからダウンロードすることができます。 <https://ictov.jimdo.com/home/海外情報談話会/>

第 8 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

事務局

第 8 回 ICT 海外情報ウェブサロンが 2021 年 5 月 29 日(土)19 時 30 分～21 時、ウェブ会議室において開催された。当会の山川(事務局長)から「タイ国 TT&T 社の経験談」をプレゼンし、参加の皆様から各自のタイの思い出等について話があった。参加者の 35% 以上がタイ駐在の経験があり、TT&T 社については参加者の 100% が知っているという、あたかもタイ同窓会のような雰囲気であった。現在もタイとの関係を維持している方もおり、高瀬幸雄様からはタイ人技能実習生の特定技能への在留資格変更支援の話があった。また、ウェブサロン内に個室を設置しているが、その利用もあり、旧交を深く温めることができたとのことだった。プレゼンの主な話題を以下に示す。

- ・タイの豪雨被害は 2011 年だけでなく、日常茶飯事だ。
- ・タイは貧富の格差が世界一(40 か国比較)という側面もある。
- ・TT&T 社は 2002 年度、2003 年度連続黒字に V 字回復した。NTT 関係者の一部には「TT&T 社はいつも赤字」と思っている方がいるが、それは誤解である。
- ・社員へのボーナスは長くゼロであったが、KPI に基づくボーナスシステムと黒字化により、社員へのボーナスが支給再開された。いつも笑顔のタイ人社員が、さらに笑顔になった。
- ・社長交代により、目に見える成果があったが、新社長のヘッドハンティング等に深く関与した。
- ・技術サポートだけでなく、経営全般へのサポートが効果的だった。
- ・日本は最早、貿易立国ではなく、海外現地法人からの配当が国際収支を支えている。
- ・NTT は 2005 年に TT&T 社から撤退したが、その成否を今、問い直す。
- ・営業活動を活性化するにはわかりやすいセールストークが必要であり、TOT と TT&T の 2 社の回線(2 ルート化)によるリスク回避策(ラインバランスング)は有効であった。
- ・新サービスの開発推進により、競争意識の徹底が図られ、競合他社に先駆けた自主的な営業活動が促進された。
- ・IP 技術者の育成は当時珍しい遠隔とリアルのハイブリッド方式で実施し、非常に好評であった。
- ・外国人としては信頼醸成が大切であり、主要株主連携のほか、仏門修行、日本語教育ボランティア活動などを実行した。
- ・タイは日本以上に学歴社会である。



<事務局注>当会の山川(事務局長)のプレゼン資料は、下記サイトからダウンロードすることができます。 <https://ictov.jimdo.com/home/海外情報談話会/>

編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 98 号を発行することができました。今回は当会の飯塚顧問から「<続> “第二の故郷” アルゼンチンへの想い」、鈴木顧問から「断絶の米国」、北垣様から「ハンガリー・オーストリア・ドイツ俳柳紀行」のご寄稿をいただくとともに、岩槻(徒然)日記、海外グラフィティのご寄稿も継続していただき、誠にありがとうございます。

JICA「クロスロード」7月号に当会記事が掲載される予定です。全国に4,000部配布されるほか、下記サイトにも掲載される予定です。掲載後、ご覧いただければ幸いです。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/index.html>

JICA 海外協力隊 2021 年春募集、国際交流基金日本語パートナーズ派遣事業募集についても掲載しました。奮ってチャレンジしていただければ幸いです。

当会及び当会報へのご感想、ご意見などございましたら、下記サイトにご記入いただければ幸いです。皆様からのさらなる会報へのご寄稿と ICT 海外情報ウェブサロンへのご参加をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<https://ictov.jimdo.com/コメント/>

発行： ICT 海外ボランティア会(CTOV)
会報担当： 空席のため募集中 (編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)
ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)